

7. 当院における生殖補助医療技術 (ART) の成績

獨協医科大学産科婦人科学教室

野口崇夫, 北澤正文, 久野達也, 根岸正実,
三ツ矢和弘, 稲葉憲之

【目的】近年ART技術の進歩とともに治療成績も大きな改善が見られてきた。そこで、今回当院におけるARTの変遷、成績および多胎妊娠率をまとめたのでこれを報告する。

【対象・方法】1974年以降当院で行われた不妊治療 (AIH, GIFT, IVF-ET, ICSI-ET, 凍結融解胚移植) の年度別と全期間の平均妊娠率および多胎妊娠率を検討した。

【結果】AIHでの過去10年の平均妊娠率は26.1% (対周期) であった。GIFTでは87年から92年の6年間で43.9% (対GIFT)。IVF-ETは過去16年間で42.3% (対採卵)。ICSI-ETは過去7年間で44.2% (対採卵)。凍結融解胚移植では23.5% (対解凍) であった。また過去11年間のIVF, ICSI-ETによる多胎妊娠率は22.1%であった。

【考察】今回の結果はいずれも日産婦で報告されている国際平均妊娠率と比較しよい結果であった。しかし、多胎について他の報告と比較しあまり差を認めなかった。

【まとめ】今後、高い妊娠率を維持することはもちろん、多胎発生の減少に向けて更なる改善が必要である。

8. 当科における帝王切開術での夫立ち会いの現状

獨協医科大学産科婦人科

多田和美, 渡辺 博, 保倉 宏, 池田綾子,
岡崎友紀, 庄田亜紀子, 岡崎隆行, 西川正能,
田所 望, 稲葉憲之

【目的】当院では分娩時の夫の立ち会いは原則として希望者全員に認めている。妊娠32週頃、パンフレットを渡して医師より経膈分娩・帝王切開術とも夫の立ち会いは可能と説明している。夫の立ち会いに際して母親学級受講などを条件とはしていない。

【方法・結果】当科での1987年1月より2005年8月までの期間における夫立ち会いの帝王切開術は帝王切開術数3347件中191例 (5%) であった。夫の立ち会いは年々増加傾向にあり、2004年は248例中56例 (22%) であった。当院では1995年より手術部・麻酔科の御協力により、正式に帝王切開術での夫立ち会いが可能となった。以前は、夫が医療関係者である夫婦の立ち会いが多かったが、最近の傾向は必ずしもそうではなくなっている。

【結論】現在までに帝王切開術でとくにトラブルが起こった例はなく、帝王切開術での夫の立ち会いは、医療施設側の環境が整っていれば問題はないと考えられた。今回は、帝王切開術時の夫立ち会いについての現状と問題点をまとめるとともに、実際に立ち会いをした夫に対するアンケート調査の結果を報告する。